

## 「コカ・コーラ教育支援プログラム in 北海道」の視察を通して

沖縄県教育庁義務教育課 指導主事 本村 税

### 1. 北海道との対面

石垣島からの長旅で、体調がすぐれなかった児童が千歳空港に到着するや否や元気になった。北海道は旅の疲れを一掃した。夕張郡栗山町のコカ・コーラ環境ハウスへの道中、バスの窓越しに見える風景は児童たちを圧倒していた。

「雪だー」「飛び込みたい」「白い息が出た〜」「(クリスマス)ツリーの木がいっぱい」「除雪車!」・・・多くの感嘆の声がバスの中に飛び交っていた。石垣島の子どもたちにとって、北海道の風景は何もかもが新鮮で、まさに別世界に映ったに違いない。私自身、初めての北海道の雪景色に心躍らされていた。

### 2. 子どもたちの様子

石垣島の小学校から参加した児童たちは今回のプログラム当日が2度目の顔合わせとのことであった。環境ハウスに到着後のオリエンテーション、コカ・コーラの職員やスタッフによるレクレーションや夕食を含むクリスマスパーティーを終えるころには、児童たちは互いに打ち解けあい、まるでひとつの学級の修学旅行を引率しているような錯覚さえあった。夕食後、翌日のスノーウエアの採寸、そして入浴の時間の予定であったが、「雪を触りたい」、「雪で遊びたい」という抑えきれない児童たちの想いが引率者を圧倒し、日程が変更された。マイナス6度の中、児童たちの夢中になって雪を投げ合う体験は一生の宝物になるに違いないと感じた。

1日目の振り返りシートからは、未知の環境へ足を踏み入れたという不安よりも、その後どのような体験ができるのかという、あふれだす好奇心が読み取れる。

2日目、本プログラムの核のひとつである自然体験プログラム「スノーシュー体験」が

行われた。ハサンベツ里山にて雪山を歩くためのスノーシューをそれぞれ履き、一列になって山道を散策した。足跡ひとつない雪山でのラッセルの体験、我こそはと果敢に先頭を歩き、後続の道を創る児童たちにたくましさを感じた。ガイドの説明で分布する植物の紹介、植生についての説明を受ける。沖縄とは異なるほぼ緑のない植物の群生や、雪の上に残されたキツネの足跡に児童たちは興味津々であった。途中休憩、児童たちはここでもやはり雪の魅力に引き込まれていた。ふわふわの雪にダイビングする児童、雪合戦が始まり、引率スタッフも巻き添えになり、私自身も参戦した。大人と雪を投げ合って一緒に楽しもうとする児童の姿に、人間関係の積極的な構築への意欲を感じた。

アイスクリーム作りは児童たちの中で数あるプログラムの中でも印象に残った活動だったようだ。ボール状の容器にアイスクリームの材料を入れ、雪の上で転がして固形化させていく。氷に塩を加えることで氷点下まで温度が下がる原理を利用した科学的な体験に加え、チームで協力してボールを転がしながら、ほかのチームと競わせるという環境ハウススタッフのアシストが児童たちを没頭させていた。「協働して何かを創り出す」という活動はおのずと子どもたちを引き込んでいった。

### 3. 体験プログラムがもたらせたもの

2日目の朝5時半、児童たちが廊下を歩く物音で目が覚めた。6時には着替えを済まし、前日の夜に約束した雪道の朝の散歩に向けて準備万端であった。大人の指示なく行動を起こす児童、周り仲間の力を借りながらも他者に迷惑が掛からないようにと周りに合わせながら行動する児童、日常とは異なる環境で、それぞれが自分なりに懸命に考えながら責任ある行動をとっていた。

今回のプログラムには石垣島の9つの小学校から18名の児童が参加した。それぞれ学校から1~3名の参加で、緊張と不安が漂っていた往路のバスとは大きく異なり、2日後の復路のバスでは様々な会話が飛び交い、賑やかなものになっていた。

ある児童は振り返りシートに「(雪合戦をして)男の子と女の子の団結力が高くてびっくりしました。『えっ、私たちまだそんなに過ごしていないのに息ぴったりなのどうしてなの』と思いました。北海道に行くまで不安でいっぱいでしたが、みんなと一緒に初めてのことに挑戦すると不安がなくなりました。」と綴っている。その他の児童も、雪で遊ぶことができた満足感に加え、友達ができ、一緒に取り組み何かを成し遂げたことへの達成感を互いに感じている様子であった。そして沖縄とは異なる気候や文化に出会う中で、石垣島で育ち、生活しているというアイデンティティを再確認できたに違いない。

北海道の自然、環境ハウスでの共同生活を通して、子どもたちの「伝え合う力」「関わり合う力」が大きく高まったのを目の当たりにした。

#### 4. 本プログラムの展望

**「私はあまり石垣から出たことがないし、行きたくても行けない。行けても遠い場所には行けないので、『北海道に行ってみよう』なんて私は何も言いませんでした」**

今回このプログラムに参加したある児童の振り返りシートに書かれていた文章である。家族にかかる経済的な負担、また地理的要因といった自分自身ではどうしようにもできない状況にある子どもは無意識に自分自身の行動範囲、可能性に上限をつくり、自己抑制してしまう。

本県では家庭の経済状況や環境等に左右されず、沖縄の未来を担うすべての子どもたちが夢や希望を持って成長することができる、「誰一人取り残さない社会」の実現を

目指し日々の教育活動が行われている。子どもたちがどのような状況に置かれていても、質の高い教育を受けることができる環境を提供し、個々の成長と豊かな人生の実現を後押しする教育施策を行うことを目指している中で、そのような「自身を抑制する児童」がいる現実と対峙したとき、教育施策の限界を感じざるを得なくなる。

そういった中で、コカ・コーラ環境教育財団による今回の支援プログラムは公教育だけでは成しえない質の高い教育支援であることは間違いない。気候も文化も沖縄とは異なる北海道という地で、共同生活をしながら取り組む体験プログラムが、子ども達の自己肯定感や自己有用感の高まりをもたらし、人間的な成長をもたらすものであったとともに、離島格差の是正や貧困問題等に関する社会的な動き、普及啓発の広がりにもつながる大きな可能性を秘めているものだと感じた。

#### 5. 終わりに

3日間のプログラムは、コカ・コーラ教育財団の職員の皆様、環境ハウスのスタッフの皆様の緻密な計画、きめ細やかな運営や配慮、石垣市教育委員会の引率の皆様の適切な判断、対応により成功裏に完了することができました。

今回のプログラムへの参加を通して、官民が協働した教育プログラムの大きな価値、そして可能性を肌で感じることができました。本教育支援プログラムを含め、これまでもコカ・コーラ教育環境財団が行っている社会貢献活動に対し、深く敬意を表します。

## コカ・コーラ教育支援プログラム in 北海道の引率を終えて

石垣市教育委員会学校教育課  
指導係長 西表知彦

去る10月に今回の教育支援プログラムのお話をいただき、石垣市版の実施要項や募集要項の作成業務からとりかかりました。本プログラム出発まで約2ヶ月というタイトな日程にもかかわらず、沖縄コカ・コーラの比嘉さんからの的確なアドバイス等をいただき、派遣児童の選出、必要書類のとりまとめ、保護者説明会を予定通り行うことができました。また同時に、沖縄コカ・コーラの皆様におかれましてもチケット手配や環境財団との細かな段取りまでしていただき、出発に際する万全の体制を整えていただいたことに感謝申し上げます。

12月25日の出発時、新石垣空港において、これから始まるプログラムへの希望と、隣のメンバーとうまく会話が续かず(メンバーとの顔合わせがまだ2回目ということもあり)少し不安そうな表情が多かったような印象を受けました。しかし北海道の新千歳空港に着いた時には、多くのメンバーが打ち解け、班長を中心にグループとして機能しており、参加メンバーのコミュニケーション能力の高さに驚かされるのと同時に本プログラムへのさらなる期待が膨らみました。

雨煙別小学校環境ハウスでの入所式などを終えた後に、キラキラした瞳で「先生、早く雪を触りたいですが、自由時間ってありませんか?」と提案してくるメンバーの調整能力の高さにも感心しましたが、何より初めて雪遊びをしたときの全メンバーの最高の笑顔が感動的でした。雪に飛び込む、雪だるまを作る、雪玉を投げあう、周りの目を気にしながらもそっと雪を食べる!??・・・それぞれが石垣島では体験できない「雪遊び」に飛び込んでいきました。

2日目のスノーシュー体験ではお互いを気遣いながら先頭を譲り合い、雪で足を取られたメンバーを助け合いながら、冬の北海道の自然環境を学ぶことができました。また、アイスクリーム作りでは男女とも仲良くそれぞれのアイデアをこらしたアイスクリーム作りに取り組み、午後のトゥイッグマグネット作りではそれぞれの芸術センスがキラリと光っていました。そして何より、時間の使い方がうまくなったメンバーはメンバー全体の意見をまとめ「引率者と交渉」し、自由時間を獲得し予定にはなかった雪遊び時間を見事ゲット!メンバーの成長を感じた1日となりました。

今回、本プログラムに参加したメンバーはこの体験で得たことを、これからの学校生活など様々な場面で発揮してほしいと思います。

最後に、このような機会を与えてくださいました公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団の皆様、沖縄コカ・コーラボトリング株式会社様、本プログラムにおいて団長として同行していただきました比嘉まゆみ課長様はじめ、多くの関係機関及び関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。